

オーソライズドジェネリックの認知度とその普及における課題

仙波 瞳¹⁾、北尾 尚樹²⁾、片山 珠季³⁾、石原 美菜子³⁾、前田 守⁴⁾、
長谷川 佳孝⁴⁾、月岡 良太⁴⁾、森澤 あずさ⁴⁾、大石 美也⁴⁾

- 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 登川店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 十三駅前店
- 3) 株式会社アインファーマシーズ
- 4) 株式会社アインホールディングス

【目的】後発医薬品(GE)は、生物学的に同等とされて製造販売が承認された医薬品であり、先発医薬品(先発品)よりも薬価が低い。そのため、その普及は薬物治療の効果を維持しつつ患者への負担の軽減することのみならず、医療保険上の医療費削減にもつながる。今後、社会の高齢化が進行するにつれてますます増加することが予想される医療費が問題視されるなか、GE 普及は保険薬局の薬剤師が注力すべき重要な施策のひとつである。一般的に、GE は先発品と同一の有効成分かつ効能効果であるが、原薬、添加物、製造方法などが異なる場合がある。しかし、オーソライズドジェネリック(AG)は、原薬、添加物、製造方法などまで先発品と同一であり、薬価は低いがほぼ先発品と同様である。そこで本研究では、AG の認知度を調査し、その普及における課題を抽出することを目的とした。

【方法】2018年1月から4ヶ月間に当社グループ薬局4店舗に来局した患者のうち、GEの使用を希望しない患者130名(男性58名、女性72名)を対象に、「AGの認知度」、「AGの使用希望の有無とその理由」を紙面にてアンケート調査した。

【結果】有効回答123名の11.4%がAGを知っており、76.4%が知らなかった。また、21.1%がAGの使用を希望し、59.3%が希望しなかった。使用を希望する理由は「先発品メーカーが製造しているので安心できる」が65.4%と最も多く、使用を希望しない理由は「先発品から変更したくない」が58.9%と最も多かった。

【考察】本結果から、AGの認知度は低いことがわかった。また、AGへの変更を希望する患者は、AGがほぼ先発品と同等であることを理解していたが、変更を希望しない患者はAGの特徴を正確に理解していない可能性が示唆された。これらのことから、保険薬局の薬剤師は、AGの特徴を正確に理解してもらえるように説明する必要がある。

(第12回日本薬局学会学術総会(2018年11月, 名古屋)にて発表)